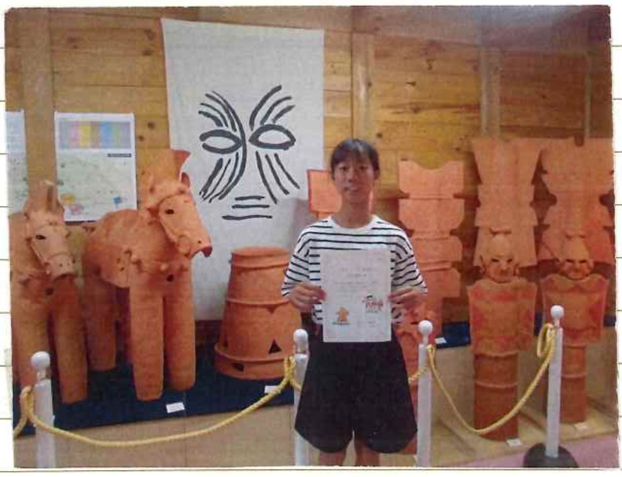
Date No.

時代によるお墓の変化

ー造りの違いに注目してー



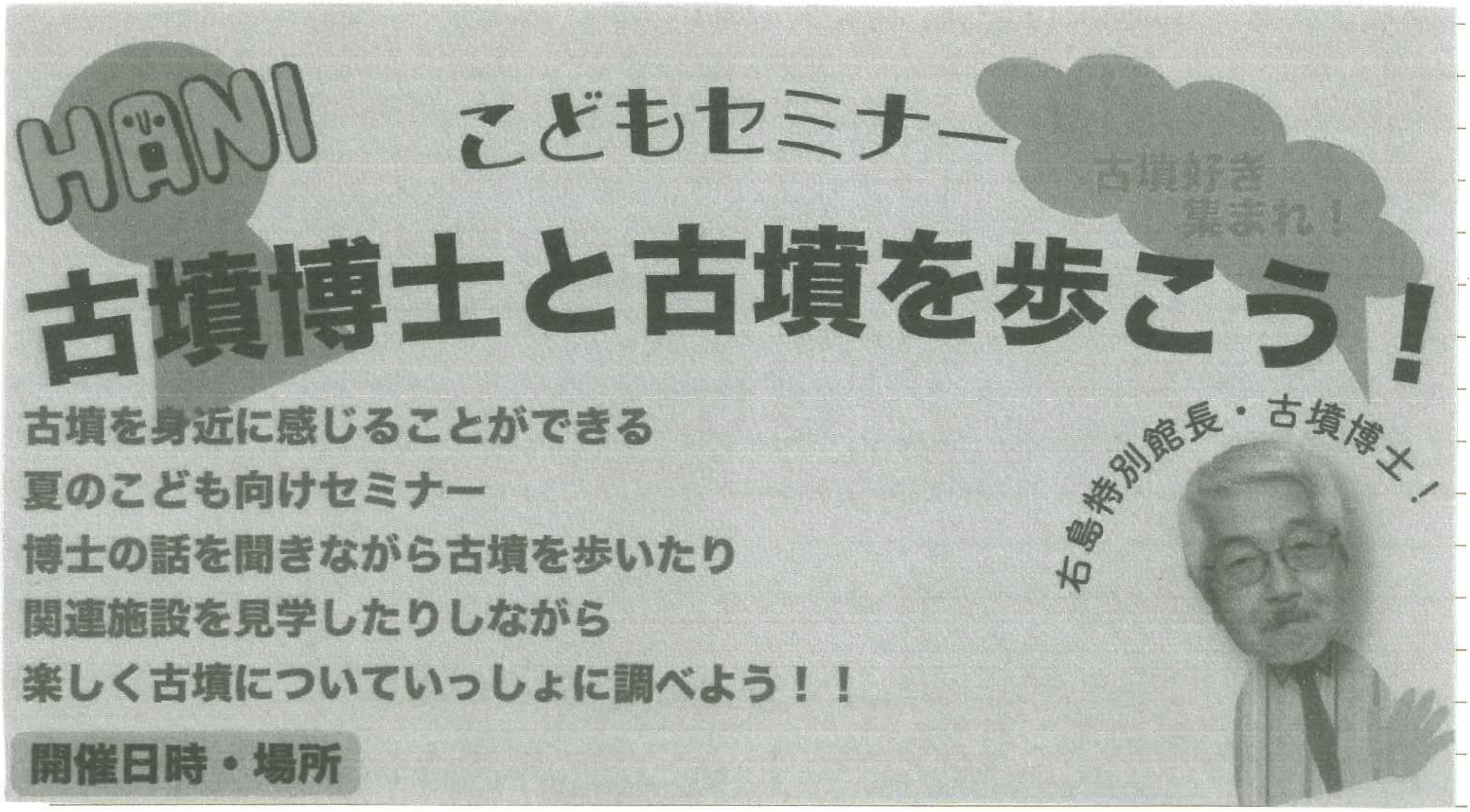
伊勢崎市立あずま中学校 1年4組

鈴木 晴美

1、研究の動機

私は今まで、勾玉作りの体験イベントに、2回参加したことがありました。幼稚園の時は、途中で諦め、家族に作ってもらいました。小学2年生の時は、自分で最後まで作ったアクセサリーに喜び、しばらく着けていた記おくがあります。ただ、その当時は、作った勾玉が古代の装身具だということを知りませんでした。近所にある伊勢崎市の鶴巻古墳では、兄とダンボールを使って、古墳斜面でよく遊びました。3年生の町探検で、古墳が昔の王の墓、だということを学び、横にある入口部分から墓の中の部屋をのぞいて見ました。

今年、祖母が亡くなって、骨つぼをお墓に納める時に、上にある石を大人2人でずらし、その骨つぼを先祖のつぼと一緒にしました。その時に、今のお墓と古墳では、大きさや造りが違うことが気になり、夏休みに、「こどもセミナー」「古墳博士と古墳を歩こう!」に参加して、話を聞いたり、自分の目で実際にみて、調べたいと思いました。「時代によって、お墓がどう変化したのか」



2、調査・研究方法

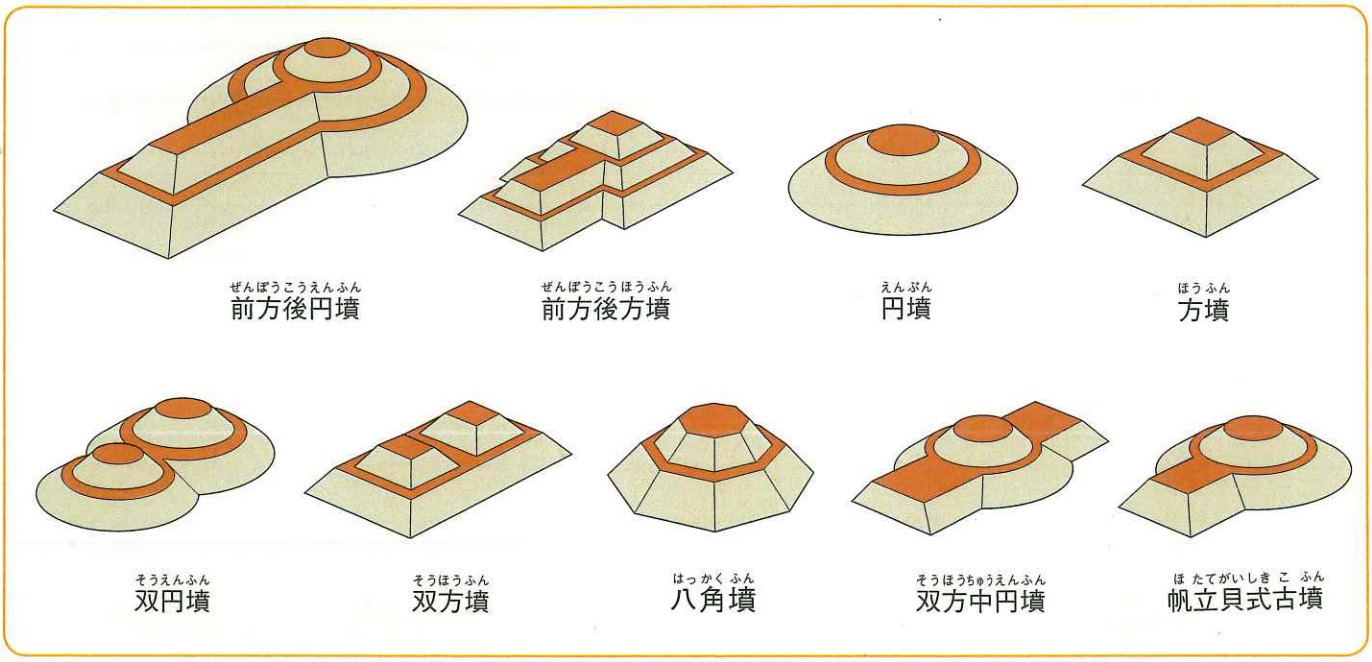
・セミナーに参加し、実際の古墳について、話を聞いてくる。
（大室古墳群にて）
・石室の近くや中に入り、石や造りを見る。
・時代によって、お墓がどう変化したのか、を本やインターネットで調べて、まとめる。

3、(1)東国文化とは

「東国文化」とは、古墳時代から平安時代にかけて
現在の関東地方周辺で栄えた文化のこと。
東国文化の中心地…「上毛野国（かみつけぬのくに）」
〃（奈良時代以後）…「上野国（こうずけのくに）」
↳群馬県とほぼ同じ範囲
群馬県は、12000基を超える古墳が造られたと考えられている。
太田市にある東日本最大の太田天神山古墳をはじめとして、
100m以上の巨大古墳も数多く造られた全国屈指の古墳大国。

(2)古墳とは

「古墳」とは、土を高く盛り上げてつくった「墳丘」と呼ぶ小高い丘をもつ古い墓のこと。日本では、3世紀中頃から7世紀中頃にかけてつくられたものを特に「古墳」と呼ぶ。
位の高い人や権力者の墓としてさかんにつくられた。
形は、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳、双円墳、双方墳、八角墳、双方中円墳、帆立貝式古墳などがあります。前方後円墳は日本独自の形ですが、現在は弥生時代の墓から独自に発展したという説が有力です。
それは、円形の墳丘墓の周濠を掘りのこした通路の部分が発達し、死の世界である墓と人間界をつなぐ土の橋として墳丘と一体化した、というものです。



4、墓の造り（時代別）

B.C.
4000

〈土坑墓〉

縄文時代の終わり〜弥生時代にかけてよく見られる形態。土を掘って穴を作っただけのお墓のこと。長さ2m以下の楕円形か長方形のものが多く、深さは30cmほど。

B.C.
2000

〈石棺墓〉

弥生時代前期に多く用いられた。石の板を組み合わせて箱のように組み立てた墓のこと。箱式石棺墓とも呼ぶことがある。佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名。

B.C.
1000

〈再葬墓〉

弥生時代中期（東日本）に見られた。遺体を埋めたり、ほら穴などに置いたりして、一度葬ったあと、骨だけになってから壺などに入れて埋めた墓。集団の墓だといえる。

A.D. <かめ棺墓>

100 弥生時代に製造する技術が発達。
甕・瓶を棺として使用する墓のこと。甕の内部では屈葬の姿勢がとられることが多く、死者を閉じこめる、という考えがあったのではないか、といわれている。

<前方後円墳>

300 主に3世紀〜7世紀頃にかけて多く造られた。石棺を納める後部の円形に、長方形(台形)の盛り土をつなぎ合わせた形状の古墳。上から見ると鍵穴の形をしていた。巨大古墳の多くが前方後円墳だが、この形は日本独自のもの。

<円墳>

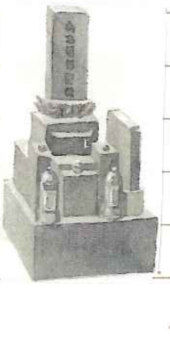
400 平面が円形をしている、古墳時代を代表する古墳。全国各地で多く見られる形状。その大きさは幅広く、中型・小型のものが大半の割合を占める。埼玉県にある、日本最大規模の円墳「丸墓山古墳」が代表的。

<横穴墓>

600 主に古墳時代に現れた。台地や丘陵の斜面に高さ2m前後、奥行数mの横穴を掘った墓のこと。とくに県西部に多く見られる。代表的なものは、埼玉県吉見百穴など。

<墓塔>

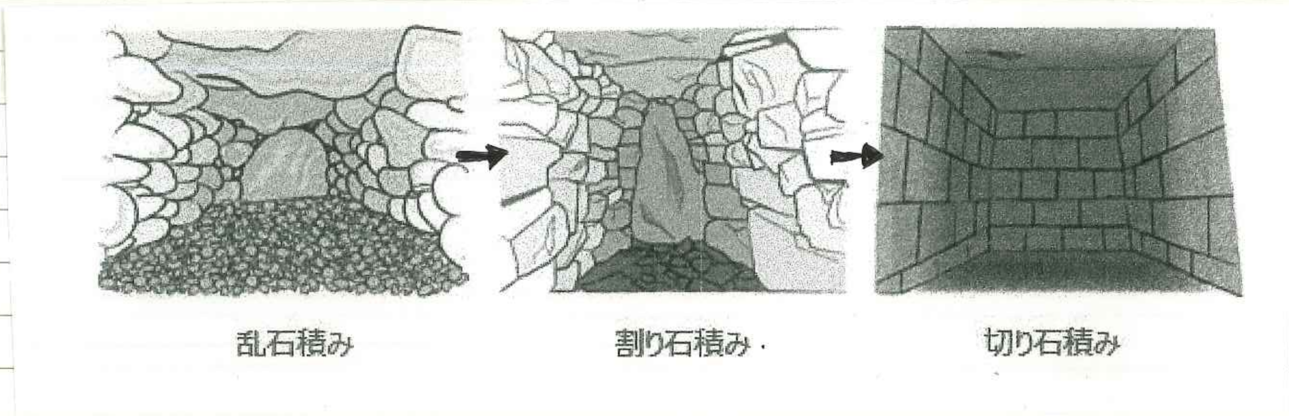
2000 現在のもので、亡くなられた方が安らかに眠れるよう供養のために建てられた塔。



5. 石室について

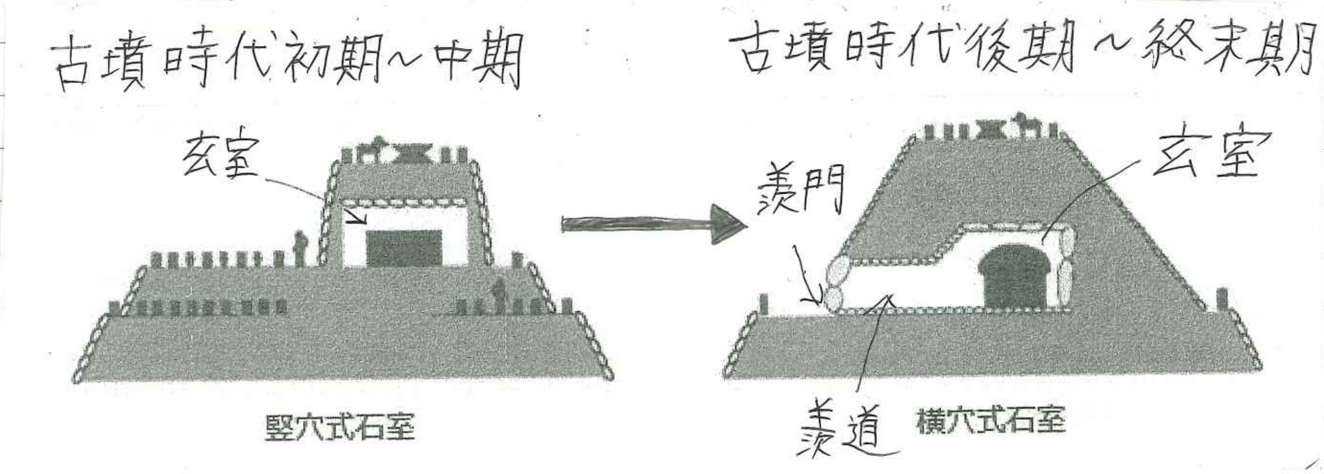
石室は、お墓である古墳の遺体を埋葬する部分、部屋のこと。古墳そのものは土でできており、その内部に石を積み上げて石の部屋を作り上げている。

〈石の組み方〉 技術が進んだ



大小様々の石を積む。 割り石を積む。 加工した石をきちんと積み上げる

〈石室の石の形〉



	竪穴式石室	横穴式石室
〈埋葬人数〉	1人（単独葬）	1人～十数人
〈特徴〉	墳丘の頂点から真下に竪穴を掘り、石室をつくり遺体を納める。蓋石をのせた上に土をかぶせるので、二度と蓋を開けられない。	墳丘には羨道があり、その奥に遺体を納める玄室が広がっている。かなり広く、追葬できる。時代的に埴輪等の副葬品が発掘されることが多い。

Date　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　No. 6

6、大室古墳群

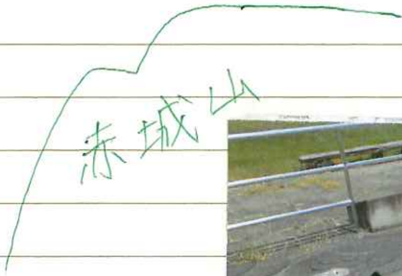
前橋市西大室町・東大室町にある古墳群。全体では10基以上の古墳が点在。主要な前方後円墳として、南から前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳、小二子古墳の4基が並び、6世紀前半～後半にかけて、この順で築かれた。

赤城山南麓一帯にはこれほどの大型古墳群は他になく、まして6世紀前半といえば榛名山が2度の大噴火を起こし、県内全域が大きな被害を被った時期である。大室古墳群に埋葬されたのは、荒砥川や粕川の水利を掌握し、流域を広く支配した一族と考えられる。

	前二子古墳	中二子古墳	後二子古墳	小二子古墳
墳丘の形式	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳
段筑成	2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）
外部施設	周堀・外堤・外周溝	内堀・中堤・外堀	周堀	周堀
墳丘長・高さ	94メートル・14メートル	111メートル・15メートル	85メートル・11メートル	38メートル・5メートル
兆域全長・面積	148メートル・約15900平方メートル	170メートル・約21000平方メートル	106メートル・約7000平方メートル	44メートル・約1225平方メートル
葺石	上段墳丘下半分	上下段墳丘と中堤	なし	なし
石室 全長	両袖形横穴式石室 13.8メートル	横穴式？	両袖形横穴式石室 9.0メートル	袖無形横穴式石室 1.8メートル
時期	6世紀初頭	6世紀前半	6世紀後半	6世紀後半

＜位置関係＞

大室古墳群は、
雄大な赤城山の眺めが素晴らしい
自然に恵まれた所!!

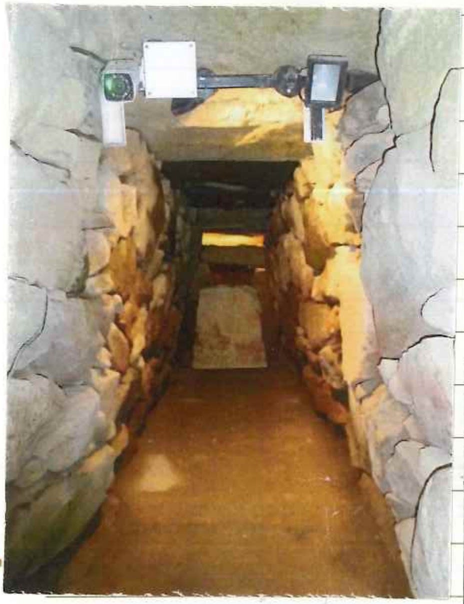


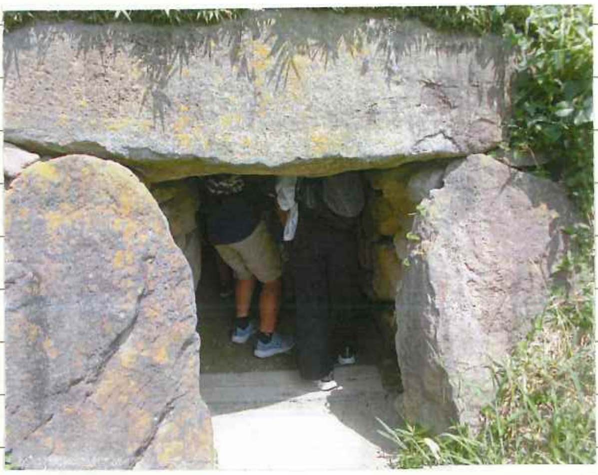
この城南地区では大室古墳群に匹敵するものは、他に見当たらない。

赤城山がよく見えることから、赤城の神社に守られている、と考えられていた。

7、大室古墳群の石室の様子

〈前二子古墳〉





入口は低く、少し手狭だが、中に入ると羨道が長い横穴式石室だった。石室には、床面に加工された凝灰岩が敷かれ、「べんがら」によって赤く塗られていた。

〈中二子古墳〉

石室が見つかっていない。

〈後二子古墳〉

前二子古墳より、石室の岩が大きいことから、運ぱんする技術や、それを造る技術が高まったと考えられる。

埴輪

地中を掘って石室を低く造ることで墳丘の盛土を節約したり、地面を掘った通路(墓道)により出入りが行われたりの工夫がある。そして、石室前の長い墓道が特徴的。その両ぎわにある前庭部には、儀式で使われた煮炊きの跡や土器が出土。

8、考察

縄文時代には、集落に住む皆が平等で、特別な扱いを受ける人が多くなかったといえる。自然の中に身をおき、常に動物たちの死に向き合って生きていた縄文人は、死はおそれるべきものではなかったようです。その証こに、縄文時代の墓は、集落の真ん中に掘られることが多くあった。命はめぐりめぐって再生する、という信仰もあったようです。

弥生時代は、同じ墓地でも、墓に差がみられる場合があったそうだ。稲作に移行し、命を落とす、ということがまれになったため、日常から遠い存在になっていったと思われる。しかし一方で、争いから、理不尽に亡くなる人も多かったため、死はおそるべきものに変わっていった。

古墳時代には、その差がよりあきらかになり、巨大な古墳に埋められる王にふさわしい人が現れた。お墓の形式・大きさの変化から、時代が新しくなるにつれて、力を持った特別な扱いを受ける人が現れてくる様子が分かる。

9、感想

日本最古の歴史書である「古事記」に登場するイザナギとイザナミの物語に出てくる黄泉の国のモデルになっているのが、「横穴式石室」ではないか、という話を一緒に古墳セミナーでまわった先生から聞いた。実際、イザナギが逃げるときに投げたとされる桃の実が後二子古墳の前庭部の発掘で遺跡としてでてきた。

古墳セミナーに参加して、先生達の話を聞いたり、中二子古墳の墳丘を歩幅ではかったり、楽しい体験ができてよかった。調べていくうちに、新たな疑問もでてきたので、また調べていきたい。

〈参考文献〉

・ぐんま東国文化ナビ
http://www.togokobunka-gunma.jp/about-tougokubunka.html

・「日本の遺跡と遺産」武井正弘、岩崎書店、2009年、P.4-8

・よりそうお葬式
https://www.yoriso.com/sogi/article/kusso/

・Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/

・常陸大宮市
https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/

・otent
https://otent-nankai.jp/category/topic/230303_ancient-tombs-type_878

・「東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～」.2020年、P.45

・やわらかサイエンス
https://www.geolab.jp/science/2018/10/science-095.php